

## 編輯 後 記

昭和64年1月7日、昭和天皇は崩御された。昭和という時代が今度どう位置づけされるだろうか。一口に激動の時代といわれる。確かにこの64年間は日本の社会構造・人々の価値観が大きく変動した時代である。そして、かつては十年一昔といわれたが、五年いや、今は二年一昔といわれる。世の中のあらゆるものの位置づけが変らってきている。人々はその変化の速さに当惑している。戦後社会は経済・科学技術を中心にした社会変革であったが、一方で急速に国際化が標榜される。情報が発達する。そういった中で日本は世界に向けてどういったスタンスで関わっていくか。日本人の伝統・文化の問題が重要になってくる。従来の切り捨て型の文明論でいいのか。長い間培われた生活習慣・文化を今こそ個人レベルで再認識しなくてはいけない時に来ている。歴史研究の方法論も過去の事例列挙や

発掘だけでなく、そこに現代的な価値を発見していかななくてはならない。所謂、進歩・発展という言葉の定義に技術面だけではない、人間の内心の豊かき、生きがいの部分まで包含した真の文明論・人間論を展開しなければならないと考える。日本人のアイデンティティにせまる書稿が求められているのではなかろうか。

本年度は網野善彦・宮地直人の両氏の講演会が内容豊かに開かれた。御二人の講師に感謝申し上げる。また郷土研の研究叢書4として久曾神昇氏の『三河地方と古典文学』が刊行された。最後に佐野賢治所員が転出され非常勤所員に、また杉本一郎氏が新たに所員に加わられた。御報告申し上げます。今年の冬はまさに暖冬異変であった。

(T・K・生)

### 愛知大学総合郷土研究所紀要 第34輯

平成元年3月15日

〔非 売 品〕

編輯代表 田崎 哲 郎  
印刷所 富士印刷株式会社  
豊橋市前畑町37  
発行所 愛知大学総合郷土研究所  
豊橋市町畑町